



な ん で や ね ん

発行責任者 倉橋 忠



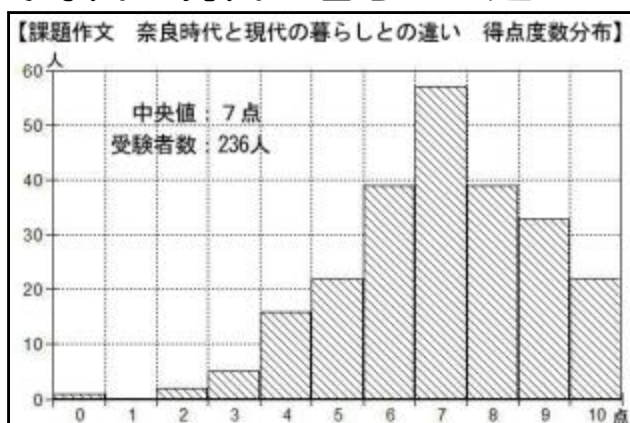
No.48

よく書けた 課題作文「奈良時代と現代の暮らしの違い」

2学期期末試験で、「奈良時代の人々の暮らしと現代の私たちの暮らしを比較して、自分はどのように考えるか」というテーマ(題意)で、君たちに作文を書いてもらいました(10点満点)。

採点結果を集約すると、学年全体で見れば、得点の中央値が7点です。作文を

よく書けるようになった人が増えています。1学期期末試験の作文では中央値が5点でしたから、着実に「表現する力」が育ってきていると言えるでしょう。これまでの定期試験の課題作文では10点は2人まででした。ところが、今回は22人の人が10点の作文を書けていました。内容的には10点を超えている人も多くいました。



1 「課題作文」の課題と採点基準

- (1) 【作文の課題】 奈良時代の貴族と庶民の暮らしについて、①貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に指摘したうえで、②貴族の暮らしが何によって支えられていたのかを説明しなさい。そして、③現代の私たちの暮らしと、奈良時代の人々の暮らしとの違いについて、あなたの考えることを説明する文を書きなさい。

- (2) 【採点基準】 結論と理由の説明の筋道が通っていること。

次の各論点につき、それぞれ2点を加点します。次に例示している以外の論点であっても題意から外れない限り、同様に2点を加点します。ただし、複数の論点の間に矛盾がある場合は、片方の記述は得点を与えません。なお、10点満点とし、6以上の論点に触れる作文であっても上限を10点とします。

- ①-1 食事のメニューを取り上げて、貴族(山海の珍味)と庶民(玄米と野菜)の暮らしの違いを誤りなく説明している。
- ①-2 住居の作りを取り上げて、貴族(瓦ぶきの大邸宅)と庶民(竪穴住居)の暮らしの違いを誤りなく説明している。
- ①-3 生産労働について取り上げ、貴族(支配)と庶民(労役)の関わり方が違ったことなどを説明している。
- ②-1 庶民が働いて造られた駅路を利用して、全国から特産物などが都の朝廷に届けられ、それが貴族の給料になっていたことなど、貴族の暮らしは庶民の働きの上に成り立っていたことを説明していること。
- ②-2 律令で身分制度が決められ、土地と人々を支配する貴族や役人と、物を生産

するために実際に働く者(庶民)とが区別されたことによって、貴族の暮らしは庶民によって支えられたことを説明している。

②-3 奈良時代の税は社会全体のためではなく、貴族の暮らしを支えるためのものであったことを説明している。

③ ①と②でふれた内容をふまえながら、現代の私たちの暮らしとの違いを説明して自分の考えを説明していること。

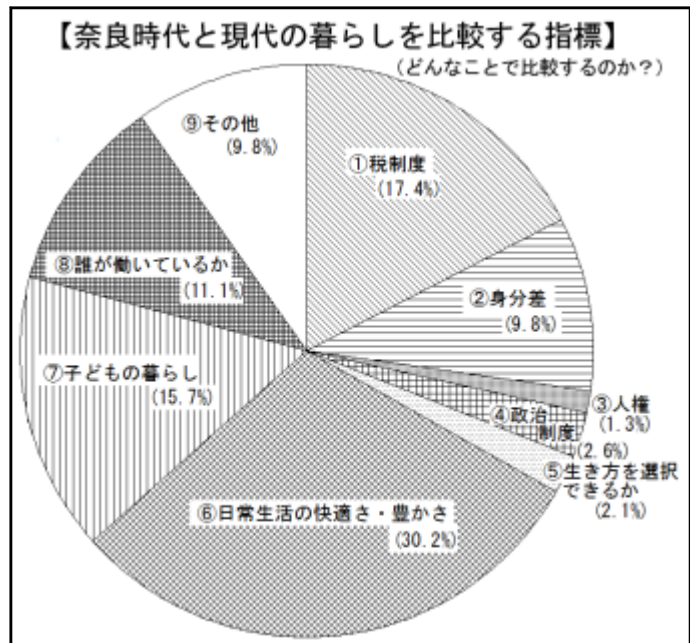
たとえば、㊦貴族の食べ物は干物や塩漬けの物が多く新鮮な食品がなかったが、現代の私たちは新鮮な物が食べることができるのは、冷蔵・冷凍保存装置や高速道路の整備、冷凍車などの技術進化や社会システムが発展しているからである。

④奈良時代に比べて、現代ではエアコンなど住居設備や、トイレトペーパーがあり快適に暮らせる。それは社会全体の分業システムや、生産力の高さ、技術の進化に支えられている。㊧現代の税は社会全体のために使われていることと国民の代表が集め方と使い方を決めている。㊨奈良時代の子どもたちは仕事をしていたが、現代の子どもたちは学校で勉強だけをしている。これは社会全体の生産力が高くなり、社会全体が豊かで子どもに労働させる必要がなくなったからである。

2 今回の「課題作文」のポイント

(1) 問題文の指示にしたがうこと

今回の問題には、作文を書くポイントと順番が指示されていました。すなわち、書くことが必要な内容と順番は、①奈良時代の暮らしと現代の暮らしの違い②奈良時代の貴族の生活を支えていたこと③奈良時代の人々の暮らしと現代の私たちの暮らしの違いを説明して、その違いについての自分の意見です。



(2) 指標を定めて、具体的な事実で比較することが大切

歴史的なできごとの違いを明らかにするためには、どの時代にも共通し^{ひかく}比較できることがらを利用します。その比較することがらを「指標^{しひょう}」と言います。

多くの人が指標に利用したのが、食べ物と住居やトイレトペーパーでした。問題文の①と②の貴族と庶民の暮らしの関係については、食べ物や住居で具体的に説明できました。

しかし、③では、21世紀の現代の暮らしを具体的に説明できない限り、比較できないという難問^{なんもん}が待ちっていました。①と②の説明を繰り返せません。そのため、指標の意味を深く掘り下げるか、指標を追加する必要がありました。

多くの方は、税制度の違い、身分差の有無、人権を認めるか、政治制度の違い、生き方を選択できるか、子どもの暮らしなどを指標にして作文しました。

3 友だちの作品から学ぼう

次に、9点以上の「答案」の一部(29人分)を紹介します。結論は似ていても、結論を導き出した根拠は様々です。ここで紹介する作文は、③の「奈良時代の人々の暮らしと現代の私たちの暮らしの違い」を書くための「主な指標」で分類しています。

ぜひ、「指標」をどのように決めているのか、「指標」と「作者の思い」はどのように関係しているのかを読み取ってください。結論も大切ですが、それ以上に、結論に至るプロセスの説明が重要です。

なお、「原文」のまま紹介していますので、文中の誤字・脱字は修正していません。注意して読んでください。「答案」の下(※寸評:)は、私(倉橋)のコメントです。

(1) 「税制度」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

B組 M.Y. 私はまず奈良時代の貴族と庶民の差は本当に大きいと考える。毎日の食事でも貴族は今の時代で考えても豪華で多すぎる程なのに対して、庶民は一汁一菜ほどの飢えてしまいそうな食事である。また、住居も貴族は大きなかわら屋根の家に住み、東大寺などの大きな建築物も出来ているのに対し、庶民はいまだに掘立柱建物や竪穴住居に住んでいる。これだけでも大きな差があったことが分かる。(①)また、貴族のこのような暮らしを支えていたのは庶民の存在である。豪華な食事が出来ているのは庶民が命がけて都に届けて来た税のおかげだし、大きな建物の建設は庶民の協力が必要不可欠である。また貴族の安全が守られているのも庶民が兵役や雑徭などの負担をしているからである。(②)次に現代の私たちの暮らしと奈良時代の人々の違いについて私は「税」に注目してみる。奈良時代の税は庶民にとっても大きな負担で集めた税金も貴族の暮らしに役立たせていて悪いイメージがある。しかし現代においての税は私たちの暮らしを支えてくれる最も重要なものだと思う。まだ成人をしていない私達が働かずに生きていけるのは自分の親が一生懸命働いて税金を払い、家庭に利益をもたらしているからである。また、もし税金がなくなってしまうと今私達があたり前のように使っている教科書なども各自の負担となり、警察もいなくなってしまう、道路が危険な時も誰も工事や塗装をしなくなってしまう。私はこの税金の制度はとても良いと思う。奈良時代の税は良いとは思わないがそれが今の税の始まりであり、奈良時代の税がなければ今の私達の暮らしがなかったかもしれない。そう考えると税はとても深いことなんだな、と考えさせられる。つまり、奈良時代と現代の差はとても大きいがすべての歴史が今につながっているということである。あたり前の生活に感謝して、1日1日を生きていきたい。

(※寸評:奈良時代の税制度が貴族の暮らしを支えるためのものであったことに対して、現代の税は国民の生活を守るために集められていることを具体的に説明できています。最後の段で、税制度が奈良時代から現代まで連続していることに触れていますが、「感謝」を入れるために無理につないでいるようにも読めます。政治制度の違いは「税の集め方と使い方の違い」だとも言えます。ですから、連続しているように見えて、全く異なる制度だとも言えます。そのために、あなたが何に「感謝」しているのか分からなくなります。)

C組 H.W. ①貴族と庶民の暮らしの違いに、住居がある。貴族や僧侶などは瓦で屋根をふかれた立派な建物だったのに対し、平城京の庶民は掘立柱建物、地方の庶民は竪穴住居に住んでいた。また、貴族と庶民の食事にも大きな差があった。貴族は、考古学者が再現した食事では17品の料理がある一方で、平城京の庶民は米・アワ・ヒエなどに一汁一菜、地方の庶民はアワとヒエが日常食だったそう。なぜこのような差がうまれるのか。私は庶民が重い納税を

していた事が理由だと思う。庶民が納めていた税には、都や大宰府に兵役に
いかなければならないものや、与えられた口分田でも大人1人の1年分の米の
量がとれない中、その米の3%を納めるものなどきびしいものがあり、経済的
にも余裕がなく、貴族との差が大きくなってしまふのだろう。②このように、
貴族と庶民とでは大きな差があるが、貴族の生活は何によって支えられてい
たのか。庶民は調・庸を駅路を使って都まで運んだり、税以外にも都の造営
工事もさせられていて、庶民の中には故郷に帰る途中で命を落とす者も多く
いた。このように庶民が必死になって納税していたり、律令制でも庶民にと
ってはきびしい税などにしていた事によって支えられていた。③奈良時代は
納税するために6歳から口分田を与えられていたが、現代では15歳までは働
いてはいけないという法律が定まっている。現代は国全体が貧しくないため、
子供を保護できるが、奈良時代は、社会全体がまずしく、子供も貴重な働き
手だったから、保護などできなかったのだろう。また、奈良時代は税の多く
を朝廷に入れていたが、現代は税を国のために使っている。このように律令
制で貴族に税がいくようになっており、律令によって貴族と庶民の差がうま
れていたが、現代は貧富の差はあるものの、法律によって起きる貧富の差は
ないという事が現代と奈良時代の人々の暮らしの違いなのだと思う。

(※寸評:奈良時代の貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に説明しています。貴族の暮らしを庶
民の納める税で成り立ち、厳しい税であったことの説明はとてもよく書けています。現代
の税制度との説明では、「社会全体がまずしくて、子供も貴重な働き手だった」と指摘をす
ることも忘れていません。この作文のすごさは、「税(律令)が貧富の差を生み出している」
と指摘していることです。税負担のあり方が、奈良時代以降も豊かな者と貧しい者の格差
を広げるようになります。「現代は貧富の差がある」という理由を、今後の歴史学習でつ
かめるといいですね。)

C組 K.Y. 奈良時代、庶民たちの生産量に合わない重い税を庶民たちから取っ
ていた。その税は庶民のためには使われず、身分の高い人々のために使われた。
身分の高い人たちはかわらぶきの大きな家に住み、調で収められた各地の特産
物を食べていた。その一方で、庶民は縄文時代と変わらないたて穴住居に住み、
米を作っているのに食べられず、アワやヒエを主食とし、一汁一菜のしっそな
生活を送っていた。地方ではもっとひどかった。負担にたえられず、命を落と
すものや、にげだす者もいた。歴代の天皇が心配し、みことのりを出したが、
守られることはなかった。現代では、国におさめられた税金は主に医りょうふ
くしや道路の整備などに使われている。また、税金は主に働ける人々から取り、
子供や高れい者の生活保護などにも使われている。しょうし高れい化が進むと
この制度を維持することはむずかしくなり、奈良時代のように税金の負担にた
えられなくなる人が出てくるのではないかと考える。

(※寸評:「生産量に合わない重い税」と奈良時代の税の重さを的確に指摘しています。今で言え
ば、生活費がないのに税を取られるようなものです。重税の意味を分かっていないと出て
こない表現です。また、現代の少子高齢社会での税の問題に触れているこの作文には、
社会問題に対する、作者の高い関心度を読み取ることが出来ます。ただ、低所得者や庶
民のために税が使われるのであれば、あまり心配はいらないのかもしれませんが。)

D組 N.O. 貴族と庶民では衣食住や与えられた仕事などが大きく違った。庶民は
たて穴住居に住み、米や米の食べられない日にはアワなどを食べ、厳しい農業
に強いられていた。一方貴族は庶民が納めた税の租や調を食べた。庶民が納め
た税が貴族の暮らしを支え、富の象徴にもなった。このように奈良時代の人々
の暮らしと現代の私たちの暮らしには大きな違いがある。まず、私たちには身
分の差はなく、税も自分の命に関わるような重い税ではない。そして、最も大
きな違いは納めた税がどのように使われているかである。奈良時代は貴族や天
皇の暮らしを支え、貴族や天皇の富の象徴となっていた。しかし、現在の私た
ちが納めた税は自分達の暮らしを支えるためにある。現在の私たちと奈良時代
の人々の暮らしの違いは他にもまだまだたくさんある。そのような例をみても、

私は現在の方が効率が良く考えている。

(※寸評:「貴族は庶民が納めた租」を食べたというのは、厳密に言うと誤りです。貴族は広い土地を与えられていて、多くの奴婢を使い自分の土地から大量の稲を収穫することができたからです。ただ、この作文はそれ以外の記述で鋭い指摘をしています。特に、奈良時代と現代との違いを説明する場面で、「最も大きな違いは納めた税がどのように使われているかである」と主張している点は高く評価できます。この点は、公民的分野を学ばないと分からない視点で、作者の関心の高さがよく分かります。)

E組 A.K. 貴族と庶民の暮らしの違いは、住居ではっきり分かると思う。貴族や、僧侶たちは、かわら屋根のとても巨大で立派な建物に住んでいた。しかし庶民は、掘立柱の住居、地方になれば竪穴住居に住んでいる。未だ、縄文時代から進化していないのではとってしまうほどである。そんな中、なぜ貴族らが豊かな暮らしができたのかは、庶民の貧しい生活のおかげである。生産力の無いまま、税をとられ、この重い税に反対することもできないので、働くしかない。こんな世の中なので、庶民は税をとられるがままに働き続け、貴族は、どんどん我が物にしていく。現代の私たちとは、「税」のありがたさがちがうと思う。奈良時代の人々は貴族がラクに暮らすために、無いところから、米をとられていった。しかし、私たちは、社会を良くするためにという前提で税をとられている。なので重い税には、反対する意見を言う権利があると思う。税が重すぎるとは社会が悪くなるからだ。そしてこの「税」のありがたが、奈良時代の庶民をいっそう貧しくし、貴族をたいへん豊かにし、建物も、土の中の穴と、木でたてられた家という大きな差と この差の間にある大きな溝をうみだしたのだと思う。つまり奈良時代のような重い税は、貧富の差をうみだすだけのものである。

(※寸評:この作文は「奈良時代のような重い税は、貧富の差をうみだすだけのものである」と鋭い指摘で終わっています。税のありがたが違う、と奈良時代と現代の税の目的の違いを説明するだけでないところに、この作文のすごさがあります。ただ、税の重さが「貧富の差」を生み出した因果関係は説明できているとは言えません。今後の学習に期待します。)

F組 Y.K. 私は、奈良時代の人々の暮らしは、税に大きく関わると 생각합니다。なので、「衣・食・住」について、税をからめて考えていきたいと思っています。まず、「衣」では、貴族は、調や庸で納められた、苧麻などの、上等な布で服が作られています。しかし庶民は、納めるための布を作るのに精一ぱいで、ボロボロの麻でできた簡素な服を着ていました。次に、「食」では、貴族は、公出挙でとった米を中心に、調で全国から集められた様々な地域の特産品が食たぐにあがります。それに比べ、庶民は重い税や公出挙で、ただでさえ収穫できる稲は少ないのに納めなくてはならず、まともに米を食べれず、麦やあわなどといったものが主食となり、あとはみそ汁だけのとても質素なものでした。

「住」では、庶民は、雑徭などで立派な家を建てますが、そこに住むのは貴族であり、実際に住んでいたのは竪穴住居でした。

このように考えると、「税」によって、奈良時代の社会には、大きな格差があったことが分かります。では、現代の私たちのくらしは貴族と庶民、どちらにあてはまるのでしょうか。もちろん、貴族です。特に、私たち子どもは、6歳になったら働かないといけない奈良時代に比べ、現代では、のびのびと勉強させてもらえています。しかし、このように子どもが楽に暮らせるのは、昔たくさん勉強をして、今は働いてくれている、大人が存在があるからです。なので、私たちも、今たくさん学び、将来子どもたちを支える大人になるんだと思い、たくさん勉強していかないとはいけません。

(※寸評:この作文は、最初の文章で、奈良時代の貴族と庶民の暮らしの格差が「税」によって生み出されていたと結論づけて、理由を後で述べる高度な展開をしています。衣・食・住を

比較して具体的に考えていることも有効です。特に、衣のところで「苧麻」について触れていることで授業内容をしっかり活かしていることが読み取れます。現代社会の政治が税で運営されていることを前提にして、「昔たくさん勉強をして、今は働いてくれている、大人の存在がある」と指摘している点は光ります。個人的な「親」の話題を出すのではなく、社会全体の大人が、今日の子どもたちの教育環境を支えていることをふまえて表現しているからです。社会全体の生産力や経済力がないと、その社会の子どもたちが教育を受けることができないということは歴史が教えていますし、現代の貧しい国の子どもたちの様子からも分かることです。この作文は、それらの点をふまえて書けているすごい作文です。)

(2) 「身分差」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

A組 Y.S. 奈良時代の庶民は特にごうかな食べ物もなく貧しい食生活を送っていた。また、日中には、分けあたえられた口分田で働くことを強いられていた。どんなに小さい子でも貴族でなければ教育も受けられず、自由なことなどできない生活がつづいていた。それに比べて貴族は毎日、現代の私たちよりもごうかな食事をし、日中も特に厳しい労働などをすることなく過ごしていた。そんな生活を支えたのは、日々必死に働く庶民と、そんな庶民から集めた税だと思う。

そんな奈良時代の暮らしと、現代の私たちの大きな違いは「身分」ということだと思う。奈良時代の庶民は、公地公民制や、戸籍の制度などによって全てを朝廷に支配されていた。また、日々の生活では重い税に追われており、自分の好きなことや、やりたいこと、教育を受けることさえできていなかった。しかし、貴族たちは、日々自由に生活し、働かなくても、庶民が道具のように働き、税を収めてくれていたため、苦のない生活だった。貴族と庶民にはすごく大きな差がある。そんな差ができたのは身分があったからだ。現代と「身分」について比べてみよう。現代には、地域での格差や、給料での差はあるが、「身分差」というのは見られない。私は奈良時代において、庶民の生活を苦しめていたのはこの「身分差」だと思った。

(※寸評:この作文は、税の重さ、暮らしの違い、労働の違いなどを「身分差」で明確にし、奈良時代の暮らしの厳しさを説明しています。ただ残念なのは、奈良時代の身分が生まれで決まり、身分が引きつがれたことを説明できていないことです。現代には身分差がないとしているので、引きつがれる律令制の地位や身分を意識していることは読み取れますが、明確に書いておく必要があります。なお、現代でも「経済的な身分」が存在し、その「経済的な身分」は引きつがれています。それが現代社会の格差を生み出していると考えている人も多くいます。)

B組 Y.K. 貴族は屋根を瓦でふいた立派な家に住んだが庶民は竪穴住居や掘立柱住居に住んでいた。また貴族は品数も多いぜいたくな食事をしていたが、一方で庶民は玄米などの一汁一菜だったと考えられる。なぜこのようなちがいができたのだろう。ぼくは調・庸・兵役の有無だと思う。200人ほどしかいなかった貴族は大政官をはじめとする高い地位につき、高い給与や多くの土地をもらっていた。そして調や庸・兵役の義務は免除されていた。しかもこの特権は子にも引き継がれた一方で庶民は6歳以上になると口分田か与えられその口分田に応じた租を納めさせられた。また調や庸は貴族や役人の給与となっていたことから貴族の有福な暮らしを支えていたのは調や庸とそれを作っている庶民だと考えられる。また奈良時代では魚などを市でかってきても干さないといけなかったのでもずかっただと思う。現代子どもは税を払わなくてもよい。またおいしいごはんや温かい家に住めるのは身分の差などが無くなったからだと思う。

(※寸評:この作文は、奈良時代の暮らしでは、建物や食事の違いだけでなく、身分が引きつがれたことに触れています。しかも、貴族階級が高い給与や多くの土地を与えられる特権を持っていたこと、税を免除されていたことを記述して身分差をていねいに説明しています。奈良時代と現代の暮らしの違いについての説明は、やや少ないですがポイントは外していません。なお、「大政官」ではなく「太政官」です。)

B組 H.T. ①貴族と庶民の暮らしの違いについて、住んでいる家が挙げられる。貴族は、大い宅に住み、庶民は、まだ掘立柱住居という差がある。明らかな差である。また、食料では、貴族は色々な料理があるが、庶民は米とその他少しといった所だろうか。違いすぎる。②その貴族の料理は、どこから手に入れたものなのか。庶民が作った米である。他にも、庶民がつくった特産品など色々なものを貴族に渡して、庶民が苦しんで生活している間にも、貴族は暖かい服をきて、豪華な料理を食べ、ゆうがな暮らしをしていたのである。③今、私達は、何もしなくとも、料理を食べ、遊べている。これは、いわゆる「貴族」状態なのではなかろうか。だが、いずれ大人になったら働いて金を得る。その得た金で、食料などを買う。すると食料をつくった人に金が行く。つまり、今の社会は、つり合いが取れているのだ。だが奈良時代には、庶民は、無条件で、税を貴族におさめさせている。それは、一種のぎゃくたいではないだろうか。だが、貴族は何に知らないニートなんだから、どうてい庶民のくらしには何も思わなかっただろう。だからといって、貴族は生まれた所できまる。この格差が今では無い。時代の違いがよく分かる。大変。

(※寸評:この作文は、奈良時代の人々と現代の私たちの暮らしについて、住居と食事の違いを使って説明しています。その後で、自分たちで何も作らないで食べていることが共通すると、現代の子どもたちの暮らしを「貴族」状態だと言います。ですが、現代では「大人になったら」働いて金を得ているので「つり合いが取れている」と比較しています。結局、現代の子どもは「貴族のようだ」が、大人になると働くので貴族ではないと主張しているのです。残念ながら、この作文の最後の段の「庶民は、無条件で、税を貴族におさめさせている」という記述は、意味が不明です。おそらく、「庶民は、たとえ苦しい状況であっても税を納めさせられた」と表現したかったのでしょう。そのように理解すると「貴族は生まれた所できまる」と書いたことの意味が重みを持ったと思います。それが「貴族と庶民の格差」だと読めるからです。なお、貴族は「ニート」ではありません。)

B組 R.I. 貴族と庶民の暮らしの違いについては、貴族は立派な建物に住み食事でも15皿ほどあったりするが、庶民は、たて穴住居に住み食事でも1日2食で一汁一菜であった。貴族の暮らしは庶民たちの税や、働きによってささえられてきた。例えば、建物を作るときも農民が作り、食事でも農民たちが材料をとったり運んだりしていた。現代の私たちは、私たちを含めて13歳でも働かずに食事や生活ができています。しかし、奈良時代の人々は、6歳ごろから働き、食事もうるくにとれないような生活をしてきた。その違いは、身分の差があるかないかだと思う。今は、日本では身分の差はおそらくほとんど無いと思う。親が仕事をし、給料をもらって生活していく。そして、物や食料も市場で買うことができる。しかし、奈良時代の人々は、たくさん働いても、ろくにお金はもらえず、貴族という上の位の人がいい暮らしをして庶民の暮らしは貴族を優先してからというようになっていく。だから、一部の人が豊かで多くは苦しい生活になっていくと思う。

(※寸評:この作文は、奈良時代の貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に説明できています。その上で、子どもたちの置かれている条件を比較して、奈良時代と現代の暮らしを説明しています。その際に、それぞれの時代の「身分差」に注目しているところが、この作文の特徴です。ただ、「身分差」についての説明が不十分な所があり、残念な展開になっています。歴史的には、生まれつきの身分は職業や収入と結びついていました。その格差は、個人の努力で変えることは不可能なぐらい重いものでした。「生まれ」を変更できないからです。戸籍に身分を記録するということには、そのような意味があるのです。たしかに、そのように考えると、律令で身分が定められた奈良時代の社会と、「法の下での平等」が保障されている現代社会とは違います。しかしながら、経済的な格差は現代でも存在します。)

(3) 「人権が守られてるか」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

D組 Y.N. 貴族と庶民の暮らしには貧富の差があった。貴族は庶民からの租、庸、調で苦勞することなく食べ物を手に入れることができたし、米は白米で、おかずも10品以上あった。しかし、庶民は米は玄米で、米と塩のみの食事だっ

た。また、衣服も貴族は絹の服で、飾修品もつけていたのに対して、庶民はボロボロの服を着ていた。住居も貴族は瓦ぶきの立派な建物だったのに、庶民はたて穴住居に住んでいた。さらに、駅路ができたことによって、税を運びやすくなり、貴族の生活はどんどん豊かになっていった。

奈良時代は生まれた時から身分が決まっていて、変えられなかった。しかし、現代の私たちは例えば親が農業をしても、自分は医者、先生や政治家になることも可能だ。もし親が教育費を支払うのが大変でも奨学金を借りればなんとかなると思う。また、税は収入が多い人はたくさん払い、少ない人は少し払えばよい。あまりに収入が少ないと生活保護をうけられて、飢えることはない。子どもがいる家庭であれば、手当ももらえる。

他にも法律や憲法で「最低限度の生活」が保障されているのはありがたいことだと思う。

(※寸評:この作文も、奈良時代の貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に説明できています。ただし、租は貴族の食料になったものではありません。貴族には位に応じて与えられる位田(面積に応じて租を納めました)、と職田(租がかかりません)と呼ばれる広大な田を与えられていました。このことは細かいことなので、授業では触れませんでした。ですから、この作文の作者が知らなくてもしかたありません。

この作文は「駅路ができた税を運びやすく」なると指摘していることは、とても大切な指摘です。日本各地から都に駅路を通じて集められたことが、政治権力をにぎる貴族がより豊かになった大きな要因となったと考えられるからです。

また、この作文は、奈良時代と現代の暮らしを比較するのに、教育を受けるための奨学金の制度や、生活保護、さらに(文化的で)「最低限度の生活」を営む権利の存在の有無を取り上げています。これは、公民的分野の学習内容ですから、自主的に調べないと分かりません。この視点は高く評価されるべきです。関心と意欲の高さに脱帽です。)

(4) 「政治制度」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

A組 Y.M. 最初に貴族と庶民の暮らしの違いを食事や住居で説明したいと思う。まず、貴族の食事は、ハスの実入りのごはんや、蘇という乳製品など十七品にもおよぶ、ごうかな食事を日常食としているが、地方の庶民は米すらたべることができずアワやヒエなどを日常食としている。また住居については、貴族は互でできた屋根のついた立派な建物でくらしているが、都の庶民は掘立柱の住居、また地方の庶民にいたってはたて穴住居にくらしている。このような貴族の暮らしを支えているのは律令制にもとづく 大きな税である。租、調、庸などの収穫物、兵役や雑徭などの回りの警備や工事 都まで調などをはこぶことが庶民の大きな苦勞となったが、同時に貴族はじぶんたちの安全をまもってゼいたくに暮らすことができた。

この時代の庶民を苦しめた律令は、貴族たちが自分たちを守るためにつくった制度だが、今の法律は、子供や弱者を守り、全員が平等であるために作られた法律だと思う。なので昔は身分差のある社会だったが、今は全員が幸せにくらせる社会になった。やはり、暮らすなら現代のほうがいい。

(※寸評:この作文も、奈良時代の貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に説明できています。この作文が、貴族の安全を守るために庶民の力が使われたことに注目した点は、他の作文とは違う視点です。また、律令は貴族を守る制度であり、貴族が作った政治制度であったことを指摘しています。そのために身分制度が利用され、奈良時代の庶民は大きな負担を強いられたが、現代の「法律は、子供や弱者を守り、全員が平等であるために作られた」と作者は考えています。現実には、なかなか実現しませんが、少なくとも理想的にはそのような制度が目指されています。今後の公民的分野での学習で考えてください。)

C組 Y.T. 701年唐の律令にならって大宝律令が完成し官人制を設けた。5位以上の階級の者が貴族とされそれぞれの階級に応じて田地や給料がもらえるとい

う特権があった。その一方庶民は律令のきまりにより6歳以上の全ての人が性別や身に応じた口分田が与えられその面積に応じて租を負担した。良民の成人男子は地方の布や特産品を都まで運ぶ調や庸などの税、兵役があった。地方と国府を結ぶ、駅路を通じて運ばれた。遠方からは干された食べ物都から近いところからは生ガキなどが運ばれた。貴族の食事や給料は庶民の税が支えていて、住居は庶民の労役によって成り立っていた。平城京の庶民は掘立柱建物に住み、一汁一菜の食事だった。更に地方の庶民はもっと粗末な物だったという。現代の暮らしと比べてみると勤労の義務、納税の義務は同じだ。こんなにも昔から同様とは本当におどろいた。そして違う点は、貴族などの特権階級がなく日本国憲法によってみんな平等とされている点。それから教育の義務があるという点だ。国民の三大義務だ。税金をはらい様々な社会福祉を受け、成人になると勤労し、納税する。これによって国は守られている。今、僕達は一生懸命勉強をしなければならない。それが義務だからだ。

(※寸評:この作文の作者は、官人制などを自主的によく調べています。その上で、奈良時代の貴族の特権を明らかにしています。そのことで良民とされた庶民との暮らしの違いをより明確に説明できています。さらに、その「特権階級」の存在の政治制度上の有無を軸にして、奈良時代と現代の暮らしの違いに迫る手法は、とても高いレベルの作文です。ただ、最後の「国民の三大義務」と「国は守られている」ことと、国民の生活との関係についての説明がないことが残念です(これは公民的分野の学習内容ですけれどね)。)

D組 H.S. 貴族と庶民の暮らしには、雲泥の差があった。貴族が住んでいたのはかわらで屋根をふいた建物だったが、庶民が住んでいたのは竪穴住居やほったて柱建物だった。貴族が住んでいる建物は庶民が作ったもので、庶民は自分たちの家まで手が回らなかったのだと思う。食事の面でも大きな差があった。貴族は、肉や魚、乳製品、米や菓子まで食べれていたが、庶民は玄米にアワやヒエ、一汁一菜で地方の庶民では、米を食べることもできず、アワやヒエしか食べれない人もいた。律令国家では支配される人と支配する人に分かれた。庶民(支配される人)は天皇や貴族など(支配する人)の暮らしを支えるために大変な税を納めていた。つまり、貴族の暮らしは庶民たちの税によって支えられていたということだ。現代を生きる私たちはうえる心配もなく豊かな生活を送っている。これには2つの理由があると思う。一つ目は、天皇中心の世の中から国民中心に変わり、さらに農業など産業の技術が高くなったからだと思う。二つ目は家族が毎日一生けん命働いてくれているからだ。このおかげで私が働かなくても教育を受けることができる。現代の私たちの暮らしは、奈良時代の人々の暮らしと比べものにならないくらい良い暮らしだと思う。

(※寸評:この作文は、律令国家では、人々を「支配する人と支配される人」にしたと指摘していることに特徴があります。別の言い方をすると、律令制は、制度的に、法律的に、人々を差別した、ということをも鋭く見抜いた作文です。この視点は、奈良時代と現代を比較する際にも使われています。「天皇中心の世の中から国民中心に変わ」ったと、政治制度が歴史的に大きく変化してきたことを指摘しています。とても高度なレベルの作文です。

ただし、「家族が毎日一生けん命はたらいてくれているから」現代の生活が豊かだという説明は論理矛盾をおこしています。奈良時代の庶民も一生懸命に働いていたのです。けれども、豊かな暮らしができなかったのは、低い生産力と、庶民だけが重い税を負担するという身分制度が大きな要因でした。一生懸命に働いても、豊かな暮らしにならなかったのが奈良時代の庶民の暮らしだったのです。)

(5) 「生き方を選択できるか」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

E組 Y.M. ①貴族は食料の量や種類などがたくさんあり、また税も免除されるから庶民よりはるかに豊かな暮らしができた。一方庶民は食料は米と汁と野菜だけでしかも量は少し。税も逃げ出したくなるような重い税に苦しめられていた。②貴族の暮らしは庶民のおさめる税によって支えられていた。庶民がせっせと

働いておさめた税を自分達の豊かな暮らしに使っているのである。③今の私たちは ふうの人だったら 貴族ほどの食事じゃないけど十分な食事が毎日3食食べられる。貴族みたいな食事だって2ヶ月の1回くらいはできるだろう。ちゃんと家も床もあるし税もそこまで重くはない。逃げだしたくなるような仕事も毎日とは与えられない。それに嫌だったら会社も辞められる。でも、奈良時代は簡単に仕事なんか辞められない。たくさんの子供を養わなれないといけないし、税もおさめなければならない。それが嫌だったら逃げるしかない。私は、今と奈良時代の大きな違いは、今まかされている仕事を簡単に辞められるか辞められないかということだと思う。大きな事も今は簡単に辞められる。それだけ背負っているものの重さが違うということなのではないかと私は思う。

(※寸評:この作文の作者が、奈良時代と現代の庶民の暮らしを比較する際に利用したのは「生き方を選択できるか」と置き代えることができます。作文での表現は「今まかされている仕事を簡単に辞められるか辞められないかだ」としています。仕事をするとは、人の人生にとっても大きな意味を持ちます。仕事は幸福を実現することに直結しているからです。ですから、どんな仕事を選ぶかは、どんな生き方をするのかと同じ意味を持っているとも言えます。この作文の作者は、仕事を「辞められるか」という消極的な表現をしています。が、「どんな仕事につくことができるか」とポジティブな表現に変えると、もっと説得力が増したと思います。奈良時代の仕事(職業)は、生まれつきの身分で定められていて、自分の努力で仕事を変えることは、ほとんどできなかったからです。なお、現代でも、会社や仕事を辞めることができなくて、過労死する人が多く出ていることを忘れてはならないでしょう。)

(6) 「日常生活の快適さ・豊かさ」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

A組 A.K. 庶民には公地・公民の制度に基づいて口分田を与えられました。その口分田の面積に応じて3%の税、租を国に納めることになっていて、他にも都に調や庸を持って行ったり兵役の義務まで課されました。これらの税は朝廷の運営などに使われて、租は災害の時の備えとして保管し、調や庸は役人の給料として使われました。だから、貴族のぜいたくな生活は庶民の支えがあってこそだったのです。貴族はぜいたくな食事もしました。1度の食事に15品あって、見た目も栄養バランスも良い食事をとっていました。それに比べて、庶民は1日2度、一汁一菜の食事をしていました。これは、著しい格差社会であります。しかし、私たちの現代の生活は、こうした奈良時代の貴族の生活よりも、もっとぜいたくだと思います。当時、貴族の豪華な食物には技術がないことにより、農薬を使っておらず寄生虫が体の中に入ってきていていました。それを考えると、今の私達はぜいたくだし、戦い、ましてや親族同士の争いなどは少なくとも日本では無いし、世界で見ても減っています。古い時代から戦争なども重ねて失敗をしてきましたが、社会は、そこから学び、発展していていると思います。奈良時代から私達の今の生活が発展してよりよくなっていると考えました。

(※寸評:この作文は、奈良時代の税制度をていねいに説明しています。その上で、奈良時代の貴族が庶民の納めた税で成り立っていたこと、現代の暮らしが貴族以上にぜいたくであることを、生産技術の向上を要因にあげて説明しています。この作文は、それと同時に、「争いがない」ことも、今日の豊かさに結びつけています。しかし、世界中での争い(紛争)は決して少なくありません。世界大戦が起きていないだけで、奈良時代よりも大きな被害が出ている紛争は世界中に起きています。ただ、このことは、現代社会を学ぶ地理的分野や公民的分野の学習内容ですから、書けなくても仕方ないかも知れませんが。)

A組 N.M. 奈良時代の貴族と庶民の生活は、大きくちがっていた。食事もちがえば服もちがう。貴族の食たくには、かもやしかなど現代でもそう簡単には食べられない物がならんでいた。一方の庶民は、塩や、玄米と量の少ない山菜などでうえをしのいでいた。では、貴族は、なぜそんなごうかな食をできたのか。それは、庶民が命がけて調などによって都へ運んで来たからだ。それだけでは

ない。運ばんに使われた道も、全て農民や庶民が作った物だ。このように、貴族のぐうかな生活の下には、たくさんの人の苦労があったのだ。そのピラミッドの頂点にいたのが貴族や天皇家だった。一見ぐうかに見える貴族の食事。しかし今の私たちよりも、はたして良かったのか。現代の私たちの食には、牛のステーキや、ラム肉のソテーなどがたくさんある。しかし奈良時代の貴族たちが食べていたのはせいぜい鹿肉。それも量は少ない。全体のカロリーは、ぜったい現代の方が高いと思う。たとえ貴族の食でも、今の私たちの食以上ではないと思う。その事を忘れずに、食事のありがたみを感じていきたい。

(※寸評:この作文は、「食の違い」を中心に話題を展開しています。作文内容に一貫性があり、とても説得力があります。食材を誰が作り運んだのか、その食材を運ぶ道は誰が作ったのか、物の背景に人の労働があることを忘れないで作文にしています。ただ、現代の食についての説明は、食材の説明が中心で、生産量や生産技術、保管方法、輸送方法の進化などについての記述がないことが残念です。なお、現代の地球上には、飢えに苦しむ数億人の人々がいることも忘れないでください。)

A組 Y.O. 私は、貴族と庶民の食べ物の違いにおどろきました。貴族は働いていないのに、とてもぐうかな料理を食べています。それと違って庶民は毎日、重い税に苦しみながら、働いてへとへとなのに、ご飯と塩と野菜がひとつとあまりに違いすぎです。貴族の暮らしは、庶民が毎日働いて出した税によって支えられていました。私は、庶民のつらい毎日を授業でしったとき、貴族は、どうして毎日華やかにくらせるんだろう？ 庶民の苦しみも知らずに」と思いました。現代の私達の暮らしと、奈良時代の人々の暮らしの違いは庶民とで比べれば、食べ物や家や、つらさも違うと思います。まず食べ物は、今はお菓子などもあり、そして毎日まんぷくになれるほどの朝食や夕食が食べられます。奈良時代の庶民は、まんぷくを得られることはほとんどなかったでしょう。次に家は、私達は、寒かったら暖ぼうがつけれて、暑ければ冷ぼうをつけれたりして、温度調節ができるため、すぐに病気になって命にかかわるってことはほとんどありません。でも、昔は、家族が地べたで輪になって寝ていて、かまどに火をつけるほどのお金もない、というきびしい環境でした。そして、最後のつらさは、今は、借金などが無い限り、毎日あたりまえのようにご飯が食べられ、学校に行って学ぶことができます。でも、奈良時代の子供達は学ぶこともなく、毎日親と働いたり、でも食べる物はとても少ない。そんな日々が毎日続きます。私には、そんな毎日、考えられません。私は、今と昔は、昔が少しまえのことでも、ぜんぜん暮らしが違って、身分の差があったりするんだなと思いました。

(※寸評:奈良時代の中で、貴族と庶民の暮らし方については食事で比較し、現代との比較では建物の違いを表現しています。その際に、「つらさ」という心情に注目している所にこの作文の特徴があります。「心情」は、いつの時代でも人が共に感じるもののできる大切なことだと思います。作者の人の柄が表れている作文だと言えるでしょう。)

A組 Y.M. 貴族と庶民の暮らしの違いについて、最初に挙げられるのは食事である。貴族は、庶民が遠い所から歩いて運んできた特産品もあり、とても豪華な物を食べていたが、庶民は一汁一菜と玄米以下の物しか食べていなかった。次に挙げられるのは建物である。貴族はとても立派な大邸宅に住んでいたが、庶民は縄文時代とかわらない、掘立柱建物や竪穴住居に住んでいた。このような差が生まれるのには、庶民が納めた税が関係していると思う。なぜなら、税がなかった場合を考えると、貴族と庶民の暮らしは全くかわりがなくなるからだ。つまり、貴族の暮らしは庶民が納める税によって支えられていたといえる。次に現代の私たちと奈良時代の人々の暮らしの違いについてだ。まず挙げられるのは、働き始める年齢である。奈良時代の人々は6歳から口分田をあたえられ、働いていたが、現代の私たちは12歳になっても働かずに食べていくこと、教育を受けることができている。12歳になっても働かなくても良いのは、親が長い時間働き、お金をかせいでくれているからだ。次に挙げられるのはトイレ

だ。現代の私たちはきちんと設備が整った水洗トイレと紙を使うことができているが、奈良時代の人々は、溝にそのまま用を足したり、木でふいたりしていた。これはとても不衛生だし、大変だったと思う。今、豊かな暮らしを送ることができることに感謝し、毎日を過ごしていきたい。

(※寸評:この作文の「なぜなら、税がなかった場合を考えると、貴族と庶民の暮らしは全くかわりがなくなるからだ」という論理は、とても鋭いと思います。貴族と庶民が同じように負担した税は租だけでした。広大な土地を持つ貴族にとって3%の租は軽い税でした。しかし、庶民の負担した調・庸・雑徭・兵役の重い税は貴族は免除されており、調・庸は貴族の給与に使用されていました。それらのことを一文で説明できるほどの内容を含んでいます。

ただし、現代の子どもたちが「12歳になっても働かなくても良いのは、親が長い時間働き、お金をかせいでくれるからだ」という点は、それまでの記述と論理矛盾をおこしています。社会的に考えると、親の働きで子どもたちを養えるほどの高い給与が支払われているからです。現に貧しいアフリカやアジアの国々などでは、親の所得が低いために子どもが働いている例が、現代でも多く見られます。奈良時代の親も一生懸命に働いていたのです。家族の働きや暮らしは、その時代の社会の仕組みに大きく影響されるのです。)

C組 T.S. 庶民が竪穴住居などに住んでいる時に、貴族は立派な建物に住んでいたり、庶民が玄米や山菜などを食べている時に、貴族は全国各地から届く特産物などを食べていた。なぜ、貴族は庶民に比べて豪華な暮らしが出来るかというと、全国各地から租や調や庸などの重い税を都の一点に集結させて、それを少人数の貴族で分けるから、貴族一人あたりの持ち分が大きくなるのである。しかし、今日の私達の暮らしと比べると、決して奈良時代の貴族の暮らしも豪華ではない。なぜなら、全国各地から集められる特産物などは都に持ってくるのに日数がかかるためほとんどが干物である。スーパーに行けば、生の食べ物があって、それを家の冷蔵庫で保管できる現代の方がよっぽど豪華な暮らしである。なのに、今の日本は「食べ残しの量が多い」という問題がある。これは、この豪華な暮らしに慣れてしまっているからである。だから、僕はこの豪華な暮らしのありがたみを感じて、食べ残しなどをしないようにしようと思います。

(※寸評:この作文の「租や調や庸などの重い税を都の一点に集結させて、それを少人数の貴族で分けるから、貴族一人あたりの持ち分が大きくなる」という指摘には、一部の誤りが含まれますが、的を射ています(「租」ではなく租ですが、租は国府に運ばれました)。たとえ、社会全体の生産力が低くても、一点(少数の貴族だけ)に集めることができれば、大きな資産が生まれます。この作文は、奈良時代の高度な文化の裏側を説明しています。)

E組 M.N. 貴族と庶民の暮らしの違いには、まず住居の違いがある。貴族がかわらの屋根のしっかりした建物に住んでいたのに対し、庶民はたて穴式住居に住んでいた。また食事の内容も大きく違う。貴族は今の旅館に出てくるような、たくさんのお皿に入ったごうかな料理を食べていたが、庶民は米も食べることができず、かわりに畑でとれたアワを食べる人までいたほどだった。

庶民がつらい思いをしていて、貴族がおいしい思いをしているということは、貴族の暮らしは庶民が支えていたのではないだろうか？ 庶民が働き、重い税をおさめることによって、貴族は豊かな生活を送っていた。

現代の私たちの暮らしでは、奈良時代の人々と違って食べ物に困らない。これには、現代の進んだ技術による農産物の品種改良などのおかげで食べ物が作りやすくなっていることに加え、食べ物の輸入ができるようになったことが深く関わると私は考える。国内の物だけで足りなくても、外国にたよれるようになった。これは現在少し問題になっているが、今の日本に食べ物が余るほどあ

るという幸せな日常は、食べ物を輸入できるようになったことが理由でもある。奈良時代と現在の違いは、管理にはやさしと手間を要する食べ物を長い距離はこべるかはこべないかの差だと考えられる。

(※寸評:「庶民が辛い思いをして、貴族がおいしい思いをしている」だけで貴族の暮らしが庶民に支えられていたと結論づけるのは、少し無理があります。庶民が負担した重い税と貴族の豊かな暮らしとの間の関係をもう少し、ていねいに説明する必要があります。けれども、この作文が最後の段落で奈良時代と現代の食物事情を比較している、農業技術の進化、品種改良、食料の輸入にふれていることは、前段の不正確な記述を大きくカバーできるだけの内容です。現代の私たちの暮らしは海外からの食料輸入がなければ成り立たないことを指摘できているからです。さらに、食料輸入も技術の進化に支えられていることも忘れずに説明できているのは素晴らしいと思います。)

E組 A.M. 奈良時代の貴族の暮らしは、かわらぶきの大きな家に住み、食べ物や衣服は、税として都に集められたものを使いぜいたくにしていた。庶民は、たて穴住居もしくは都にいる者は掘立柱の建物に住んでいた。食べ物は、税として取られたりしていたので、米も十分に食べられず、品目数も少なかった。貴族の生活は、庶民が税として都に運んだ物で成立していた。今の時代の暮らしは、トイレトペーパーがあり、トイレは洋式が多く、汚物は焼きゃくされて、衛生面ではきれいになった。また、政治を行っているのは、政治家である。税は金だけになり、物資を運搬するのにも、トラックや飛行機などの機械をつかっている。家は、木造か、コンクリートが多い。かまどはなく、キッチンになっている。奈良時代の暮らしは、おしりをふくのには、くそべらと呼ばれる木の板をつかい、川にそのまま汚物は流され、衛生面では最悪だった。また、政治を行っているのは天皇で権力をにぎっていた。税は、様々な種類があり、全て、人の足で都などの所へ持っていったり、歩いて、兵役に向かった。家は、貴族は現在の木造の家とほとんどかわらないが、庶民はたて穴住居や掘立柱住居に住み、キッチンではなく、かまどで調理をしていた。医学も発達しておらず病になやまされた。

(※寸評:この作文は、現代の暮らしについての説明は、具体的でとても分かりやすいです。奈良時代の貴族と庶民の暮らしを説明する場面では、食べ物、住居、トイレ事情など具体的です。けれども、奈良時代と現代の暮らしを比較する場面では、時代が何度も入れ替わっていて、とても分かりづらい文章になっています。段落を分けて記述する順番をもう少し、丁寧にかき分けるともっと読みやすい作文になっただけに残念です。)

(7) 「子どもの暮らし」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

A組 N.T. 貴族と庶民の暮らしの違いで1番大きかったのは、衣・食・住だと思う。貴族は絹などの高級な物を使っていたし、食事も今の社会でも豪華な食事で、住んでいた所は、やしきなどの広い所だったのに対して、庶民は麻など、あまり高級でない物を使っていたし、食事も質素なもので、住んでいた所は掘立柱の家で、弥生時代とあまり変わらなかった。貴族の豊かな暮らしは、庶民が1日中働いて、収穫した米や、命がけて都まで運んだ特産物や布などの重い税金のおかげだった。

現代の私たちの暮らしと奈良時代の人々の暮らしの違いは、大きく2つあると思う。1つめは、衛生面が良くなったこと。今の社会は衛生面が良いため、伝染病がはやることはあまりないが、奈良時代は伝染病がはやることも多かった。2つめは、教育について。私たちは、どれだけ貧しくても、中学校までは勉強することができる。しかし、奈良時代に勉強することができた人は一部の

上流階級の人々だけ。庶民は重い税金があるため、勉強したくても、できない人が多かったなどという違いがあると思う。

(※寸評:奈良時代の貴族と庶民の暮らしの違いと、その関係について簡潔に上手にまとめた作文です。そして、衛生面と教育での違いを取り上げて、奈良時代と現代の差を明確に説明できています。ですが、客観的な違いを説明するだけではなく、そのことについての自分の意見(思い)が書けるともっと良い作文になっただけに残念です。特に、「教育を受けることができる」ことについて、あなたが感じることはありませんか。)

A組 M.S. 私は、貴族と庶民では、衣食住の全てが違うと思います。例えば、住む家では、貴族は互の屋根の立派な家に、しかし庶民は竪穴住居などに住んでいます。食べる物では、貴族は量も多く、とても豪華な料理を、庶民は少なく、粗末なものを食べています。ですが、貴族が豪華でたくさんの料理を食べることができたのは、全国にいる庶民などが、歩いてその土地の特産物などを運んできたことにあります。奈良時代の人々は今でいうと小学生ぐらいの年から働いていますが、現在の私たちは、子どもの間は、ほとんど働かずに親が働いてきて得た収入などでいろいろな物を買ったりします。奈良時代の子どもは教育なども受けることができず、働くことしかできなかったですが、今はしっかりと学校に行っています。そういった衣食住や、教育などで奈良時代の人々の暮らしと今の私たちの暮らしの差や、違いがあるのではないかなと思いました。

(※寸評:この作文は、奈良時代の人々の暮らしと現代の暮らしの違いを、子どもたちの暮らし方を中心に客観的に説明できています。しかし、なぜ、現代では子どもが働かなくて、学校で教育を受けているのかについての説明がありません。教育を受けることがどのような意味を持つのか、人が生きていく上で教育を受けないことがどのような影響があるのかなど、あなたの意見があるとっと良い作文になりました。)

B組 N.T. ①奈良時代の貴族は立派な建物に住みウニやサザエ、肉などを食べていました。その一方で庶民は掘立柱建物に住み塩や玄米、青菜の汁などを食べていました。②このような貴族の暮らしは庶民の調や庸や租などの重い税で支えられていました。③そして、現代との違いは、やはり食事や生活で多いと思います。また、6才から税をおさめないといけなかった奈良時代とくらべて現代は12才をすぎた私達は税を納めることなく、必要最低減以上のものを得えます。それは、やはり技術が発展したということもあると思いますが、ガーナで教育を受けずに毎日命がけて働いている子供達がいったり、長野県で学業を休んでまで稲作を手伝っている子供達がいるからだと思います。このように現代と奈良時代は大きくみるとたくさんの差がありますが、影になっているところに注目してみると奈良時代の貴族と庶民の差は少し似ているのではないかなと思いました。また、世界の子供達に働くことより教育を受けさせてあげられるような良い考えを考えてゆけたら良いと思いました。

(※寸評:奈良時代と現代の暮らしを比較する指標として「子どもの労働」を取り上げた鋭い作文です。特に、地理的分野の学習で学んだガーナの子どもたちの労働が、自分たちの生活を支えているとしている点は高く評価されていいでしょう。しかしながら、この作文には、舌足らずの文章が混じっています。たとえば、長野県では夏休みを短縮して秋休み期間を作り、その秋休みに子どもたちが自宅の農業を手伝っている地域があります。けれども、それは都会に住む人を支えるためにしているわけではありません。家族は協力し合うものだという考え方に基づいています。子どもの労働が悪いのではなく、労働することで教育を受ける機会が失われることを法律は禁止しています。「学業を休んで」いるわけではありません。学校の休みに家業の手伝いをしているのです。なお、「必要最低減」ではなく、「必要最低限」です。)

B組 S.N. まず、庶民と貴族の暮らしには、大きな違いがあった。それは、家や食事だ。例えば、家なら、庶民は掘立柱住居に住んでいた。だが、貴族は、木の上にかわらをふせたとしても立派な家だ。また、食事では、毎日色とりどりのぐざいや、何品も残すぐらいであった貴族にたいして、庶民は、少ない品数で、おなかをみたしていた。これらの、裕福な貴族のくらは、庶民の税などからなりたっている。これらは、私の現在でもこのことを言える。私たちが生活できているのは、色々な人々やぎせいははらってなりたっている。ガーナの人々は、子供でも、教育をうけることができず、家族のために働いている子たちもいる。こうしたことから、わたしたちは、あたりまえのようで、あたりまえではない日々をすごしているのだ。現在の暮らしは、このことから、大きく重い税はなく、食料が不足することもせず、良い暮らしをおくれていることに気付くことが出来る。(このことに、気付かされるきかいをくださった倉橋先生に感謝したいです！)

(※寸評:この作文は、地理的分野で学習したガーナの子どもたちの力カオ園での労働を取り上げ、奈良時代の子どもたちの暮らしと重ね合わせてとらえているところに特徴があります。子どもが労働しなければならない国々では、大人の賃金が低いという現実があります。大人の賃金(給料)だけでは生活できないので、子どもが働き学校に通うことができないという状況になっています。一方、豊かな暮らしをする貴族を支えるために、奈良時代の庶民は苦しく重い税を課せられ貧しい暮らしを強いられました。現代の私たちの暮らしも、奈良時代の貴族の暮らしと変わらないと主張しています。「わたしたちは、あたりまえのようで、あたりまえではない日々をすごしているのだ」と。なお、私への「お世辞」は不必要です。)

D組 M.I. まず、奈良時代の貴族は庶民に比べて、とてもぜいたくをしていたと言える。例えば家だ。貴族は、広さ6万㎡、そして屋根はかわらぶきでふいてある、そんな立派な所に住んでいた。しかし、それに比べたら庶民らは、一家で寝るにも狭苦しい、室内の温度を調節できない、簡素な造りの竪穴住居や掘立柱建物に住んでいた。また、食事にも大きな差がある。貴族は品数が豊富で彩のある食事をしていたが、庶民は、玄米、汁物だけが基本の食事をしていた。ひどい時には、米を税として納める義務のせいで、十分な食事が摂れなかった。つまり、貴族は庶民が苦勞して得た米を働く事なく食べていたのである。現代で考えると、すごくひどい事だと思う。現代はそこまでの大きい格差を感じられないからだ。そうした奈良時代と現代の相違点を感じられる中で、私は、共通点もあるのではないかと思う。なぜなら、私達中学生は働かずして生活しているからである。私達の生活は、かつての貴族の生活と似ているのかもしれない。働いてくれているのは、家族、生産者、運搬者……。奈良時代に比べて、皆が豊かな生活をしている現代で、私達子供はまだ甘えているだけの奈良時代の貴族に過ぎないのかもしれない。

(※寸評:この作文は、奈良時代の貴族と庶民の暮らしを、具体的に説明できています。また、「貴族は庶民が苦勞して得た米を働くことなく食べていたのである。現代で考えると、すごくひどい事だと思う」として、食事から奈良時代と現代社会の格差を比較しようとしています。「現代はそこまでの大きい格差を感じられない」と作者はしていますが、根拠が示されていません。実は、庶民の暮らしが奈良時代ほど悲惨なことがないだけで、格差については現代の方がひどいかも知れません。現代では、働かないでも年間に数十億円もかせぐ人がいる一方で、死ぬほど働いても1年間に200万円もかせげない人がいます。ただ、現代の多くの子どもたちの暮らしを見ると、奈良時代の庶民の暮らしよりもはるかに豊かです。その意味では「私達子供はまだ甘えているだけの貴族」だと言えるでしょう。)

(8) 「誰が働いているか」の違いに注目して自分の意見を説明する作文

B組 S.Y. 奈良時代の、貴族の暮らしと、庶民の暮らしには、とても大きな差があった。例えば、住む場所にしても、貴族は互のついた立派な建物だったことに対し、庶民は掘立柱住居や、たて穴住居に住んでいた。食事にしても、貴族は、各国から集められた調を使ったぜいたくなものだったことに対し、庶民は玄米に塩など、質素で栄養も少ないものだった。

このような貴族の暮らしは、庶民たちの生活をぎせいにした物だと考えられる。租、調、庸などの税は、貴族の食事、生活に用いられていたと考えられる。つまり、貴族の暮らしは、庶民の税によって支えられていた。

今の私たちの暮らしには奈良時代のように重い税がなく、経済格差も、ほとんどなく豊かな暮らしだと言える。

しかし、その暮らしを支えているのは、発展途上国に生まれた貧しい人たちである。例えば、チョコレートの原料のカカオ豆は、アフリカの貧しい少年たちが、自分の学校へ行く時間をぎせいにして、作られている。つまり私たちの豊かな暮らしは、このような人々の貧しい生活によって支えられている。いつの間にか、私たちが貴族になってしまっているのではないか。

(※寸評:この作文は、現代の私たちの暮らしが、発展途上国の貧しい人たちの支えで成り立っていると主張しています。地理的分野の学習で学んだ知識を活用して、奈良時代の貴族と、現代の先進国の私たちの暮らしを重ね、見つめ直した点は評価です。しかし、もう一步深く調べて、発展途上国の人たちに、先進国がどのように支えられているのか具体的に説明して欲しかったですね。たとえば、チョコレートがなぜ安いのか、などです。そうすると、私たちがしなければならないことも見えるはずです。なお、「互」ではなく「瓦」です。)

E組 M.T. 奈良時代の庶民と貴族の暮らしの違いについて、まず、比べるべき点は食事についてだ。庶民は、ご飯、スープ、塩、魚などのおかずの4つのおかずを食べていた。これはすごく少ないと思う。ご飯といってもそんなに量は多くないし、あたたかくもないだろう。しかもこのこんだては、都付近の庶民が食べていたこんだてで、地方の庶民の食事はもっとひどかったと考えられる。それに対し貴族は、アワビ、鮭、ハスの実入りご飯、かきなど15のおかずを食べていたと考えられている。15種類のおかずなど、現代でも食べない量なので、かなり多い。それに、アワビなど、今でも高級といわれるものを食べていたのだ。貴族のこのような食事は一体誰がつくっているのか。それは庶民だ。庶民が食材をつくり、都までもってきて、それを貴族が食べている。建物だってそうだ。貴族は瓦の立派な建物や、立派な木造建築の建物で暮らしていた。だがそれは、貴族がつくったものではなく、庶民がつくったものだ。そんな庶民の家はというと、縄文時代、弥生時代から変わらず竪穴住居や掘立柱建物。貴族は、庶民を自分たちのために使い、庶民には絶対に裕福にさせなかったのだ。貴族の暮らしは全て庶民が支えていた。現代とは全く違うと思う。現代の私たちの暮らしは誰が支えているのだろうか。私は、全員が全員を支えているのだと思う。農家は野菜をつくり、大工は建物をつくり、警察は安全を守る。色んな人が見えないところで色んな人を支えている。奈良時代とは全く違うしくみが現代はできていると思う。

(※寸評:この作文の奈良時代の人々の暮らしの説明はとても具体的で詳細です。そこから、貴族を支えた庶民の働きに注目し、現代の社会の仕組みと対比しています。現代社会が多くの人々の仕事の分担＝分業で成り立っていることに注目していることは素晴らしいです。ただ、その社会的な分業に自分は、どのように関わるのかも考えて欲しかったですね。)